

2016年7月27日

お茶の工場ってどんなところ？



静岡市立安西小学校2年生の子どもたちが朝日茶業静岡工場を見学に来ました。

「おはようございます！」

7月21日（木）朝9時、子どもたちの元気な声に、静岡工場の職員も笑顔で迎えます。

静岡工場は安西小学校の学区内にあります。

「学区を知ろう」という授業で、お茶の製造工場を見学するために2クラス、53名の子どもたちがやってきました。



工場の入り口で工場長からお話と注意事項を聞いてから、マスクと衛生帽を付けていよいよ中へ。



最初はお茶の原料倉庫です。品質を保つための冷蔵倉庫では「寒い～」とか「気持ちいい～」とか歓声が上がります。棚にたくさん並んだ大海（だいかい； お茶を入れる大きな袋）にちょっと驚いた様子。仕上室ではお茶をブレンドする機械やふるい機の説明を聞いて、次は包装室です。

包装室に入るには、粘着テープで服の埃を取って、手をよく洗って消毒、そのあと2人ずつエアシャワー室に入ります。エアシャワーの強い風に「きゃ～！」「わあ～！」、ちょっとしたアトラクションだったようです。

包装室では小売店に並ぶ商品の包装をしているところを見学。作業している職員に、「一日に何個作るの？」と質問。「1日1万個くらい作りますよ」の答えにびっくりしていました。



「頑張ってください」と声を掛けていただいて、作業している職員も思わずにっこり。この後の仕事にも精が出ます。

お茶を作るには、いろいろな機械や大勢の働く人がいることを知って頂けました。

食堂には3種類のお茶を準備してあります。

緑茶の深蒸し茶と普通煎茶、玄米茶、ほうじ茶。茶葉を触って、匂いを嗅いで、色を見て、飲んで、それぞれどんなお茶なのかを知ってもらいます。



「深蒸し茶は柔らかい」、「煎茶の方がサラサラしている」「ほうじ茶は匂いがおいしそう」「玄米茶に入っている茶色い粒は何?」「お茶は食べられるの?」などなど、色々な感想や質問があちらこちらから聞こえてきました。

中には、新茶は何故5月なの?と本格的な質問も。

楽しく学んで頂けたようです。



家でもお茶を良く飲むという子どもたちが多い一方、急須を初めて見たという子どももいて、静岡は名産地とは言え、お茶はペットボトルの時代なのでしょうか。

見学して頂いた子どもたちには是非、急須で淹れたお茶を飲んでほしいと願います。

1クラス1時間ほどの工場見学と試飲を通じて、お茶の作り方を見て、触れて、飲んで、お茶に興味を持って頂けたでしょうか。

これからもお茶をたくさん飲んでくださいね。



後日、子どもたちからお礼の絵手紙を頂きました。早速、工場に掲示します。ありがとうございました。学区内に所在する企業として、授業を通じて地域のお役に立てたことをうれしく思います。

(小澤)